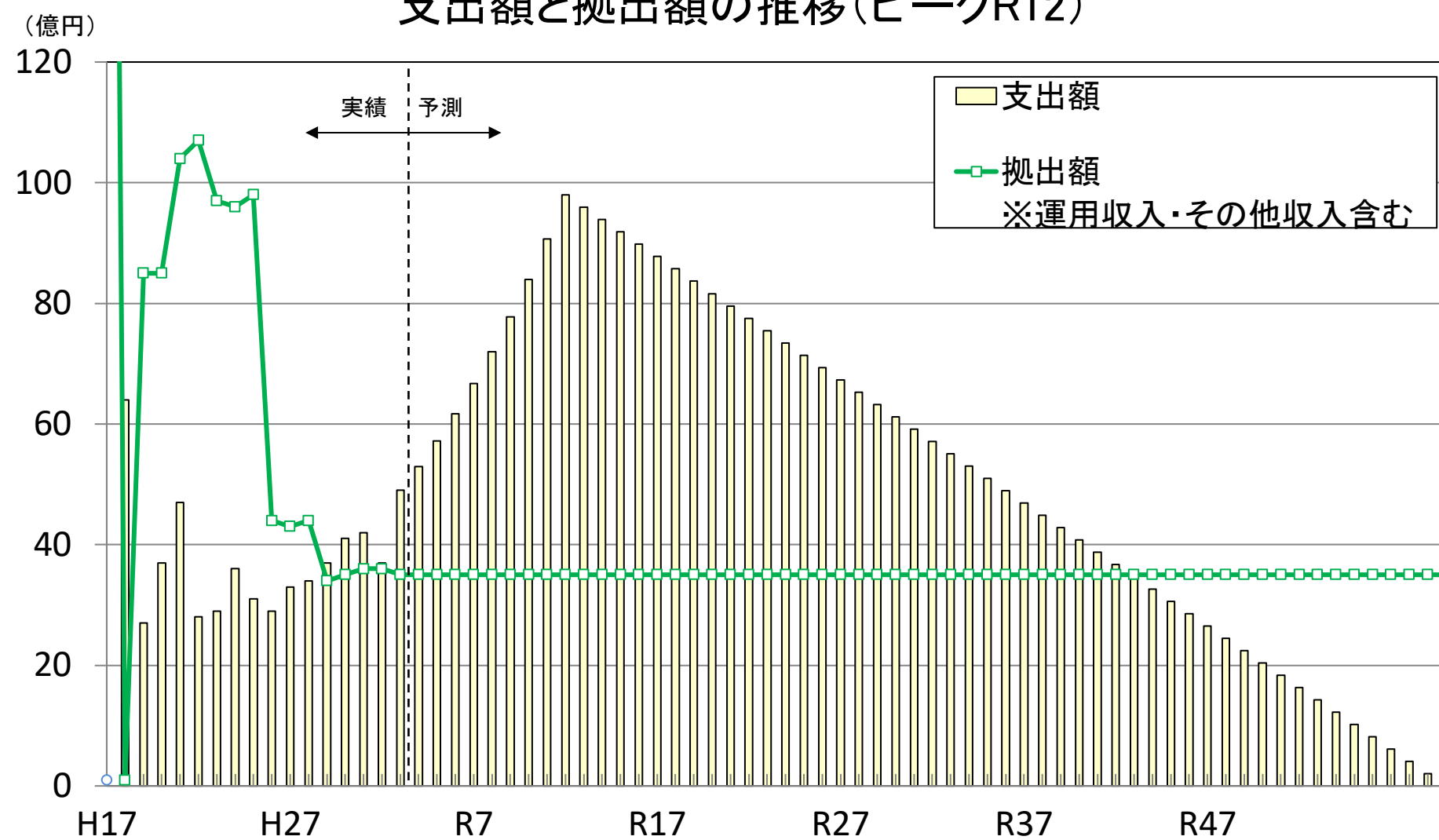


前回頂いた御指摘事項に関する資料(基金関係)

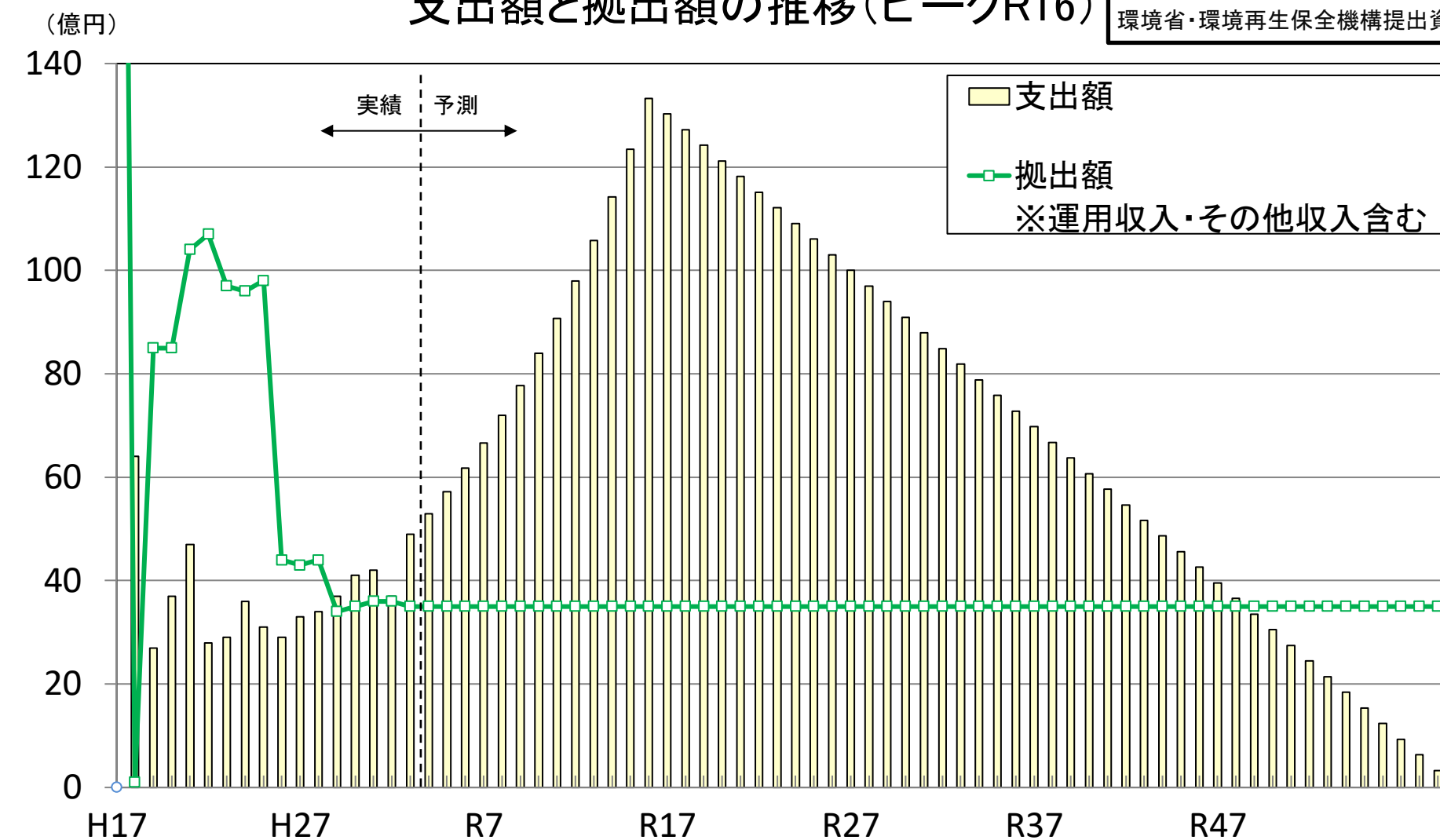
資料4

環境省・環境再生保全機構提出資料

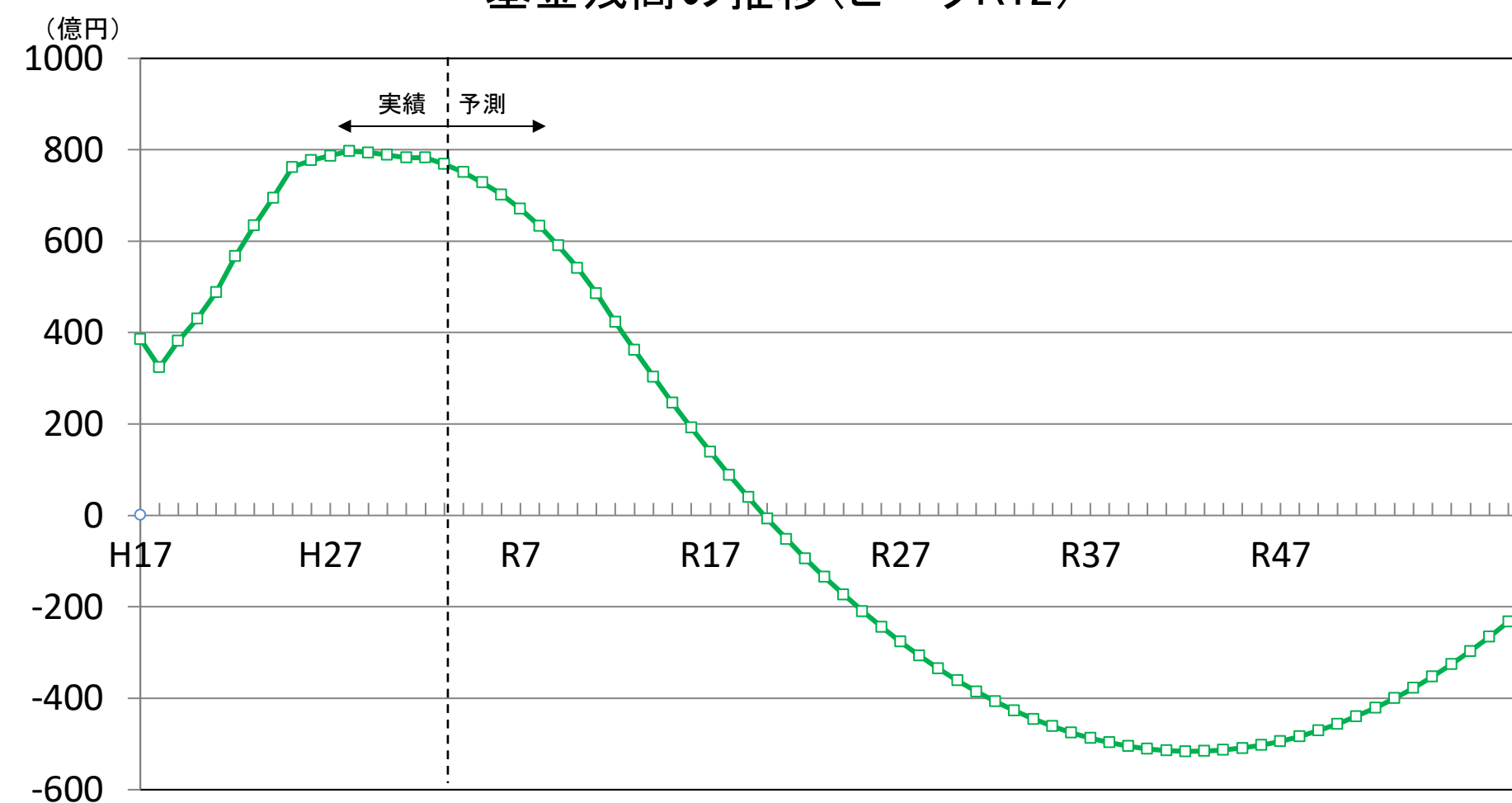
支出額と拠出額の推移(ピークR12)



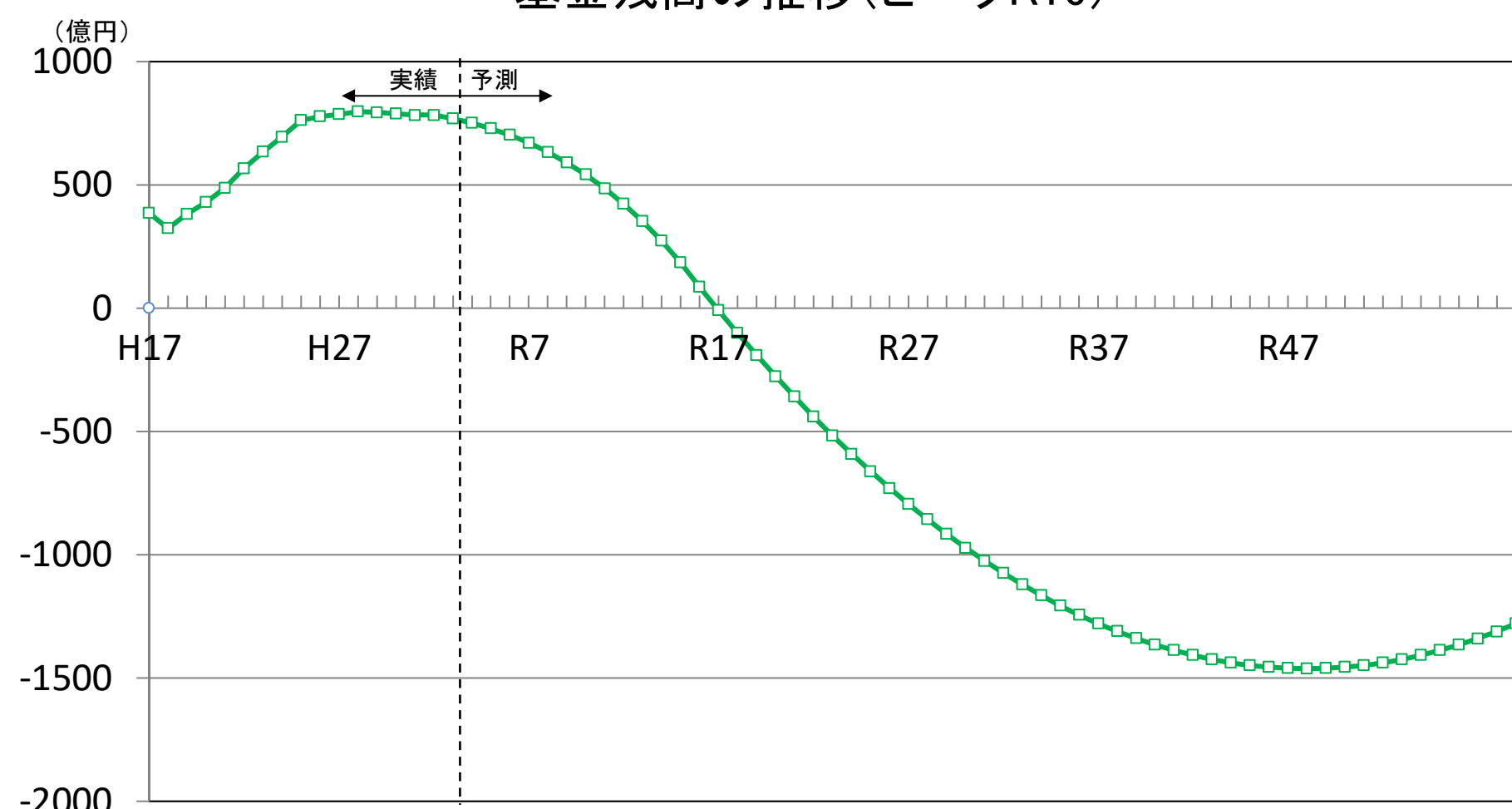
支出額と拠出額の推移(ピークR16)



基金残高の推移(ピークR12)



基金残高の推移(ピークR16)



推計に当たっての仮定:

- ・支出額については、令和3年度までは実績値を使用し、令和4年度からピーク(令和12年度又は令和16年度と仮定)に至るまでは平成28年度からの支出額の増加率平均(直近5年)が約8%であることから、年8%ずつ支出額が増加すると仮定した。
- ・支出額のピークについては、中皮腫死亡者数は現在引き続き増加傾向にあり、有識者の推計資料によれば中皮腫死亡者数のピークは2030年～2034年(Murayama T et al. 2006. Estimation of future mortality from pleural malignant mesothelioma in Japan based on an age-cohort model. Am J Ind Med 49:1-7.)頃とされていることから、2030年度(令和12年度)及び2034年度(令和16年度)と仮定した。
- ・支出額が0となる年度については、①平成24年には新たな石綿製品の使用が完全禁止されたこと、②石綿関連疾患の一部はばく露から発症まで30年から40年程度かかること、③未申請死亡者の特別遺族弔慰金等の請求期限は死亡の時から25年を経過するまでであることから、平成23年に石綿を吸入し約40年後に石綿関連疾患を発症・死亡し、遺族が特別遺族弔慰金等の請求期限間近に給付申請を行う場合を想定して、令和60年度と仮定した。なお、ピークを経過後は支出額が漸減し、令和60年度に0となると仮定した。